



## 色彩館に咲く

### スノードロップ

*Galanthus nivalis*

ヒガンバナ科ガランツス属

原産地：地中海、ヨーロッパの森林地帯に分布

### 春を告げる真っ白な耳飾り

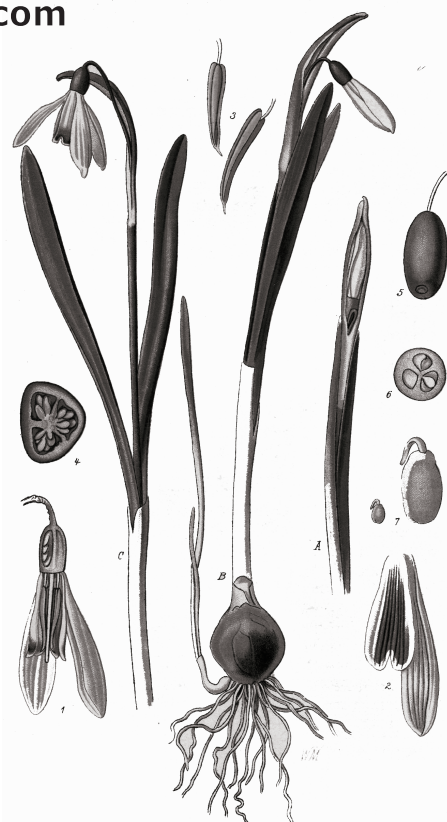
スノードロップは草丈 10cm 前後の球根植物です。花の形は名前の通り白く、雫のような形をしています。属名の「ガランツス」は、ギリシア語の「ミルク」と「花」の意味を持つ「ガラ (gala)」と「アンツス (anthos)」に由来します。日本には明治の初めに導入され、秋から早春にかけて花が咲くことから和名では「マツユキソウ」と呼ばれます。

半日日陰になるような場所や、落葉樹の下などのやや湿った腐植質の土壌を好みます。ヨーロッパでは森林地帯で群生する姿や、ロックガーデンなどにシクラメンと一緒に植栽される姿を見ることができます。タネから育てる事もできますが、取り扱いや生育のしやすさからほとんどが球根で販売され、特にトルコ原産の「エルウィジー」という種が多く出回っています。バラ園ではエルウィジーの他に「ニヴァリス」というヨーロッパ原産の種が植栽されていますよ。エルウィジーより細身の花形で、日本ではそれほど普及していませんが、約 15 種あるスノードロップの中で代表的な種です。

ヨーロッパで古くから春を告げる花として親しま

れ、たくさんの伝説や童話が残されています。西欧ではアダムとイブがエデンの園を追われ、冬の寒さに悲しむイブのもとに天使が舞い降り、冬がすぎれば春が来るとイブを慰めます。そして舞い落ちる雪のかけらに息を吹き込み姿を消すと、そのあとにスノードロップが咲き出したといわれます。ドイツの言い伝えには世界の始まりのおり、あらゆるものが色を与えられる中、雪だけには色を与えられませんでした。雪が創造主に訴え出たところ、どんな色でも持っている花達から、色を分けてもらうようにと言われました。しかし、花達から全く相手にされません。落ち込む雪を見かねたスノードロップが自分の花の色を分け与えたので、以来雪は冬中この気前の良い恩人を守り温めているのだという言い伝えがあります。

他にもたくさんの物語を持つスノードロップ、バラ園では、レストランボーダーガーデンの他にも、色彩館の花壇にも一部植栽されていますよ。こちらは屋外で開花するよりも一足早いタイミングで花を楽しむことができます。





当園も徐々に雪が積もり完全に冬モードとなりました。そんな冬まっしぐらな時期ではありますが、色彩館大温室内のつるバラの剪定、葉むしり、誘引作業に入っていきます。大温室内の植栽構造からあまり北海道では見られない温帯性の常緑樹がメインになっていますが、つるバラのほうは北海道でも大丈夫な品種と栽培が難しい品種どちらもあります。バラの中で耐寒性に優れているからといって耐暑性がないというわけではありません。ご自宅でバラを栽培するとき、地域によって異なる気候に合った品種を選択するか、お気に入りの花色や好みだけで品種を選択するかは栽培者の悩みになりますよね。私はバラ栽培初心者の方では後者の方でした。しかし、耐寒性に優れていて尚且つ花色も多彩な品種がたくさんあることを知り、バラ栽培の意識が変わりました。品種選びはその品種のことやバラを育てる土地の気候を良く知ってから、が大事になりますね。



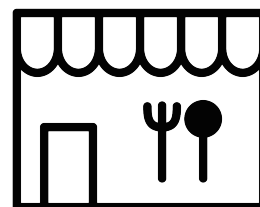
冬期間も営業中～！

バラ園内にありますレストラン『PIZZERIA L u c c i』は冬季も営業中です。土日祝日のみの営業で、11：30～15：00（ラストオーダー 14：30）で営業しております。

お問合せ  0126-31-6655

または 札幌本店へ  050-5798-2196

ピッツェリア ルッチ  
PIZZERIA Lucci



### お雑煮の話



のび〜〜っ。

新年あけましておめでとうございます。お雑煮、食べましたか？お雑煮は、古くから日本の食文化に根付いている料理の一つです。

年神様にお供えしたお餅を家族で分け合って食べることで、一年の無病息災を祈ります。ちなみに文章として初めて登場したのは、室町時代に書かれた「鈴鹿家記」という京都吉田神社の神官であった鈴鹿家の記録です。

お雑煮の由来については諸説あり、定かではありません。地域によって様々なバリエーションがあることから、それほど古くから親しまれている料理だと言えるのかもしれませんがね。

よし  
なし  
ごと

# ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹  
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗  
(イラストレーター)



Viridiflora

## 第三十四回

チャイナローズ

### グリーンローズ

*Rosa chinensis* f. *viridiflora*

作出国：中国

発見者：John Smith (アメリカ)

発見年：1827年頃

ハーディネスゾーン：Z7

繰り返し咲き性

交配：Old Blush の枝変わりと考えられています

中国原産の原種の中で唯一四季咲き性を持っていた庚申バラ（ロサ・キネンシス）から誕生した品種です。花色は赤色やピンク色がほとんどである他の庚申バラとは姿が全く異なり、バラの中では珍しく緑色で、花に見える部分は実は包葉の集まったものであり、花には花弁がなく、たくさんの萼片があります。満開時には赤味が混じるものの、色としては地味なものが花付きが良く、なにより花持ちの良さが際立ちます。樹高はそれほど伸びず、100cm前後ですが、樹形はコンパクトなブッシュ樹形で管理は容易です。香りはほとんどしませんが、他に色味のある花の近くに植栽することでメインの花の引き立て役や差し色として使うことでも魅力を発揮します。耐病性には優れるものの、暖地向けの性質であり、冷涼地では温室内での栽培が適しています。

この品種の系統でもあるチャイナローズとは名前の通り中国で生まれた系統で、ヨーロッパに渡って更に改良されたオールドローズの一

種です。チャイナローズのおかげで、現代のバラの四季咲きや返り咲きの連続開花性の基盤となった系統で、世界に多くのバラのグループが誕生しました。

この品種には別名がいくつかあり、ロサキネンシス ヴィリディフローラ、青花（セイカ）など全部で9個の別名が存在します。なぜこんなにも別名が存在しているのかは不明ですが、明治時代の頃には青花の呼び名が主流だったという噂もあり、またこの品種は茶花としても使われることがあるそうです。

当園でもこの品種はポット苗として2株ほど管理していて、現在は葉むしりをして枝だけの状態ですが、周りの常緑樹とも調和していて貴重な品種です。早くて4月上旬には花を見られます。なにぶん花が地味なので、大温室のつるバラが見頃を向かえ始めてきた頃にでも、これもバラの一種なのだ目を留めてくれるだけでも幸いです。大温室は年中営業していますので是非足を運んでください。



# 第8回 いわみざわ洋らん展

入場無料!

日程 2017年2月16日(木)~  
2017年2月19日(日)

時間：9:00~17:00(最終日は16:00まで)  
場所：いわみざわ公園バラ園  
室内公園色彩館ロビー

**出展募集** 丹精込めて育てたあなたの  
一鉢を出展して、会場をラ  
ンの花園にしてみませんか?出展料は何点で  
も無料です。

お申し込み：2月11日(土)までに  
洋ラン愛好会 秋葉さん  
(0126-56-2110) まで

最終日  
2/19(日)は  
講習会も  
あります!



## 1月の市民園芸講座のご案内



- 1月15日(日) 13:00~15:00 折りバラを楽しもう 上級  
料金：300円 定員：15名 講師：バラ園スタッフ
- 1月29日(日) 13:00~15:00 多肉植物の寄せ植えをしよう  
料金：1,000円~(容器代別途) 定員：10名  
講師：バラ園スタッフ&フラワーマスター
- 2月19日(日) 13:00~15:00 洋ラン栽培の楽しみ方  
料金：無料 定員：40名  
講師：川面 豊樹さん えるむ花園
- 2月26日(日) 9:30~12:00 いわみざわ公園のアニマルウォッチング  
料金：無料 定員：20名  
講師：若林 信男さん 岩見沢野鳥の会会長